

繊維産業情報化（IT）用語解説

平成14年度

中小企業総合事業団

繊維ファッション情報センター

繊維産業情報化（IT）用語解説

目 次

	頁
1 この用語解説について	1
2 用語見出し	5
3 用語解説	17
4 情報化（IT）の基礎知識	75
コンピューターのハードウェア	77
コンピューターのソフトウェア	83
ネットワークとその利用形態	88
繊維業界のSCM（QR）を目指して	95

1 この用語解説について

この用語解説について

我が国の繊維産業は中小企業の比率が高く、その産業構造には多段階分業型で非効率な部分が目立っています。さらに、古くからの不合理・不透明な商取引慣行が、取引改善の取り組みが熱心に行われてきたにもかかわらず、なくなっておりません。というよりも、長期化する不況のせいもあり、取引慣行はむしろ悪化しつつあると考えられます。また中国をはじめとするアジア諸国などからの大量の繊維・繊維製品の輸入のため、国内市場では競争が激化していますし、アジアや中南米の安価な製品が世界市場を席巻しているため、我が国製品の国際競争力は低下しているなど、我が国繊維産業はさまざまな問題を抱えています。

このような状況におかれている我が国繊維産業を改善するには、過去数回の『繊維ビジョン』（産業構造審議会と繊維産業審議会の合同部会による通商産業大臣 当時 への繊維政策のあり方に関する答申書）にも明記されているように、「マーケット・イン」すなわち市場（消費者）の求めるものを求めるだけ生産・供給する体制を構築することが重要であり、そのためには我が国繊維業界に実需対応を旨とする QR（クイック・レスポンス）の取り組みを普及させる必要があります。こうした考え方のもと、我が国では 1994 年度以降、QR 化の取り組みが官民あげて推進されてきました。

QR は、「4 繊維業界の SCM（QR）を目指して」の項でも記述していますが、1984 年にアメリカで始まった繊維産業生き残り策であり、アメリカで大きな成功を収めたところから我が国も同じ方向を目指すことになったものです。なお、欧米諸国では QR の成功を見て他産業も追随し、食品業界では「ECR」、その他の産業では「SCM」の名の下に多くの企業の実現に向けて取り組んでいます。我が国の繊維産業でも最近では、QR という呼び方をやめて SCM と呼ぶようになってきています。

以下、QR や ECR を含めて「SCM」の用語を使うことにしますが、SCM の理想的な形は、原料が加工されて製品になり、それが小売りされるまでの全過程に関係する各企業が対等なパートナー（戦略同盟）関係を結成して手を握り合い、Win-win（関係者全員が利益を得る）の思想のもと、特に小売段階で発生する売行情報を基礎に商品を切らさず、余さないように生産・供給していこうとするものです（コラボレーション＝協働）。

このような SCM を実現するためには、小ロット短納期生産や、効率的な物流、正確な販売予測などを実現するための多種類の技術開発が必要となりますが、我が国繊維産業でも

すでに 10 年近く取り組みが行われてきた結果、必要な技術の多くは既開発され、またその改善が進んでいます。こうした技術の多くは近年発達が著しい IT（情報技術）を高度に応用したものであるため、それらを現実の企業経営に応用していくにあたっては、各企業がそれを使いこなすだけの情報化、あるいは技術習得を進める必要があります。

この用語集は、我が国繊維企業が情報化を進めるに際して目にすることが多い IT 関連の用語から、426 語を厳選し、分かりやすい解説を付け、企業の皆様の情報化の手助けになるようにしたものです。用語解説の後には「情報化（IT）の基礎知識」として、コンピュータのハードウェアやソフトウェア、ネットワークなどに関して企業の皆様に最低限知っておいていただきたい事柄を解説し、また QR、SCM についても正しくご理解いただけるように解説を付けました。ぜひご活用いただきたく存じます。

ところで、ご注意いただきたいのは、情報技術（IT）あるいは情報化は、企業経営にとっての「手段」、それも今後ますます重要性を増す手段であることは間違いのないところですが、決して「目的」ではないという点です。無目的に、時代の流行だからといって情報機器やソフトウェアを揃えても、業績が向上することはありません。業績向上のためには、これからの企業経営のあり方をきちんと設計した上で、それを実現するのに必要となる情報機器やソフトウェアを選定して導入し（あるいは開発し）、その使いこなしの努力をしていかなければならないのです。